

読書のまち三郷だより

No.36
平成25年
2月
三郷市教育委員会



「雪は天から送られた手紙」

1月14日の成人の日は大雪でした。それでも、三郷市文化会館には大勢の若者が集い、社会人としての決意が語られ、華やかでかつ爽やかな式が行なわれました。さて、雪の研究と言えば、中谷宇吉郎です。宇吉郎は雪の美しさに魅かれ、雪や氷の研究を30年にわたって続けました。北海道十勝岳で雪の結晶の写真を撮り、その形を「六角型」「つづみ型」など18に分類しました。世界で始めて人工雪を作ることに成功し、結晶の形は空の温度や水蒸気の量によって違うことを発見。結晶をみれば、空のどの辺あたりで作られたのか。どのくらいの温度だったのか分かるようになりました。「雪は天から送られた手紙」という宇吉郎の言葉は有名です。「雪」を科学的にとらえた本、雪国の生活を描いた本、雪国の民話、絵本…と、「雪」をテーマに幅広いジャンルの本を読んでみましょう。

あなたもやってみませんか? ~10代から80代まで生き生きと活動~ 三郷の読み聞かせボランティア

三郷の小学校では19校全校で、読み聞かせボランティアが存在し、活動しています。中学校では8校のうち半数の中学校に読み聞かせボランティアが入っています。その中には、前谷小学校など、卒業生の大学生やOLが朝の読み聞かせに参加してくれているボランティアグループもあります。そして、我が子は大きくなって在校はしていないけれど…と年配の方が活躍なさっているボランティアグループもあります。「赤とんぼ」の宇津木さんは80代です。若さあふれるお姉さんから経験豊かな年配の方まで、それぞれ味があり、子ども達は目を輝かせて聞いています。いろいろな読み聞かせで三郷の子ども達は豊かに育っていきます。また、さまざまな図書ボランティアのおかげで読書環境は広がっています。

いろいろなボランティア

あなたならどっちを読みますか?



右側のシャーロックホームズの貸し出しは多いけれど、左側のルパンはなかなか借り手がないそうです。表紙の絵だけで子ども達は選択することが多いです。そこでボランティアさんは4コママンガを描いて呼びかけました。(彦成小)

ルパンシリーズ

ご紹介劇場 by 林



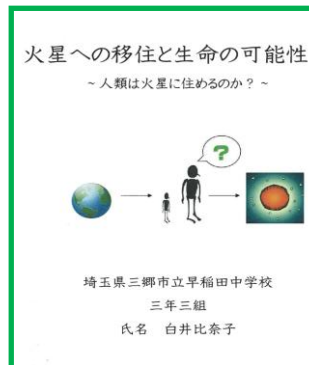
・大学2年生です。小学校でボランティアさんや先生にいっぱい本を読んでもらったので今度は自分が読む番。時間が取れる限り続けたいです。(K)

・結婚して9月から三郷に住み始めました。子どももまだいませんが、地域の方に誘われて読み聞かせを始めました。子ども達がよく聞いてくれるので楽しいです。(20代・H)



「家読の日」の定着のためにボランティアさんはイラストを描きました。学校は全家庭にこのイラストを配布しました。家庭では冷蔵庫に貼るなどして活用しているそうです。(幸房小)

調べる学習コンクール 優秀賞



「火星への移住と生命の可能性」
早稲田中学校 3年
白井 比奈子
“火星に移住できるのか”を課題にして様々な資料を集め、検討を加えた報告です。

学校図書館の掲示コーナー紹介



1~6年までの縦割りグループで大好きな本を紹介し合い紙に書き風船に貼りました。風船1つが1グループです。(高州東小)



読書月間にちなんで本のポップを描きました。そのあと投票。人気ポップの本は読んでみてねと掲示の前に本が展示されています。(彦成中)

読書のまち三郷を参考にしたい! 視察が相次ぐ

1月8日には、鶴ヶ島教育委員会
1月31日には、久喜市の校長会と教育委員会が三郷市の読書活動を視察に訪れました。
三郷市教育委員会による説明のもと、それぞれ、後谷小学校、彦郷小学校の視察を行いました。「市ぐるみで読書推進をしているのが素晴らしい」「家読はいいですね。」「学校図書館がいきいきしていますね。」など賞賛の声があふれていました。

「ららぽっとみさど」でおはなし会

1月19日(土)は桜小ボランティア「おはなしポケット」でした。手遊びや紙芝居をたっぷり楽しんでいました。



2月は16日(土)は読書のまち三郷のこども司書13名の子ども達が読み聞かせをします。1:30~1:45と2:15~2:30です。ぜひお立ち寄り下さい。

うちどく推進で家族の絆を培おう!

中学生が読んだ本をお母さんにすすめ、そのあとお母さんが本を読みました。

— 「置かれた場所で咲きなさい」 渡辺和子著 栄中 —

私がこの本を手にとった理由はあるんだ。1つは最近よくTVや本屋さんで見かけて気になっていたから。2つめはこの題名に私の名前の漢字にも入っている「咲」という字が入っていて読んで見たいな—と思ったからだ。この本の中には、いっぱいいい言葉があるけど、なかでも私が気に入っている言葉は「何もできなくていい。ただ笑顔でいよう。」という言葉でとってもいい言葉だなあと思ったんだ。この他にもたくさんいい言葉があるからぜひ読んでみてね。

(娘: 深井咲希)

この本はどこを読んでも85歳の著者の素敵な言葉が心に染み渡り元気をいっぱいもらえる本だったよ。こんなはずじゃなかったと思うことがあるけれど、どんな所に置かれても花を咲かせる心を持ち続けることが大切だね。そして、どうしても咲けない時には、無理に咲かなくてもいい。その代わりに根を下へ下へと降ろし、次に花がより大きく美しいものとなるために根を張る…努力はするけど頑張りすぎないことも必要だよ。

毎日を私の一番若い日として輝いて生きる…歳をとりたくないと思いがちな私の心に響いたよ。歳を取ることは悲しいことではない。新しい何かにチャレンジしていつも輝いていよう…今できる事を何でもいいから頑張ってみようと思ったよ。本当に素敵な本を紹介してくれてありがとう!

(母: 深井ひろ子)